

中国、タイなどで、今後、深刻な高齢化が予想され、その対策が急務になると思われます(図4、右)。

2015年現在の日本の要介護・要支援人口は615万人、これが次第に増えて2025年には817万人と初めて800万台に達し、以後、2060年頃まで800万~900万人で推移します。つまり、2025年以後は、加速度的に死亡数が出生数を上回るため、65歳以上人口も要介護・要支援人口も、その絶対数はそれほど増加せず、ほぼプラトールで推移します。しかし、その比率(%)は高騰します。つまり、20歳~64歳のいわゆる生産人口比率が急速に落ち込み、それと反比例して、65歳以上の人口比率が急激に上昇することから、2025年以降は、高齢化よりも「生産人口減少の方が主たる問題」の時代に入ります。

その後の日本社会の年齢構造について、分かりやすいグラフを見つけた。図5をご覧ください。昨年10月の朝日新聞に載っていたのですが、2019年の現在は、人口構造の大きな地殻変動の最中にあたり、2040年以降は、75歳以上人口、15歳~74歳人口、14歳以下人口は、それぞれプラトールに達し、

その後大きな変動は起きにくいという予想です。

昨年、当院主催でジョイント・コングレス(東京)を開催(図6)(第67回日本農村医学会と第20回国際農村医学会の共催)

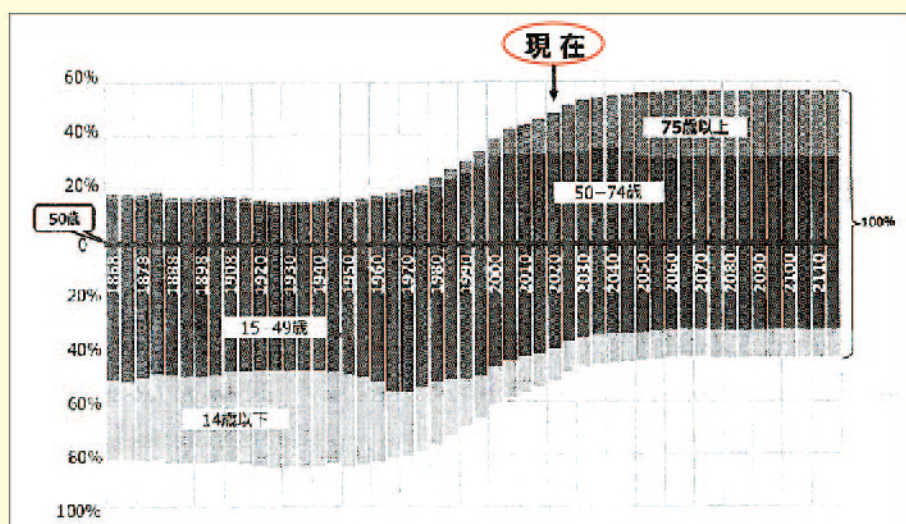
私(新谷)は、平成29年10月、日本農村医学会の理事長に就任後、日本の高齢化に伴う諸問題を、全国の厚生連病院の仲間をはじめ、大学を含めた研究者の皆様と、学際的かつ実践的に研究検討し、同時に海外の仲間とも議論する場として、昨年10月10日~12日の

3日間、2018ジョイントコングレス on Rural Medicine in 東京を、有明TFTホールにて開催しました。国内からは、全国の厚生連病院の医師・看護師・コメディカルや、大学の公衆衛生・環境衛生の研究者、海外からはスウェーデン、ギリシア、ドイツ、イタリア、セルビア、スイス(ILO)、ハンガリー、韓国、インドから農村地域(地方都市)において地域医療を実践している医師・看護師など1100余名が参加しました。

今回の学会では「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療 in the world: 日本では首都圏、地方都市、

年齢層別人口割合の遷移 (75歳以上を高齢者)

図5



出典: 第17回 医療経済フォーラム・ジャパン 公開シンポジウム 2018年10月25日
江崎慎英・経産省商務サービス政策統括調整官兼厚労省医政局統括調整官

中山間地それぞれにおいて「をメインテーマに、2025年問題に代表される世界一高齢化が進む日本の地域医療について、将来同様の問題を抱える世界各国の医療人と討論しました。現在、日本の高齢化率は27.7%(平成30年度版高齢社会白書)はもちろん世界一、これほど急激に高齢化が進み、しかも1億人を超える人口をかかえる国は、有史以来、世界中で日本しかありません。

この学会の中で、国内では全国の厚生連病院をその地域性から3つに分類し、「大都市圏・首都圏近郊」「地方中核都市」「中山間地」にあるそれぞれの病院の高齢化への取組みを発表いただきました。また、国際の方は、「高齢労働者や高齢農業従事者の持続可能な働き方とその対策」「各国の介護保険制度の現状と今後」「認知症をもつ高齢者への対策」など、高齢化対策を中心に紹介いただきました。

今回、海外からの参加者のため日本の Japanese traditional event を用意し、会長招宴では「日本相撲協会の Sumo wrestler performance」会員懇親会では「石見神楽(八岐大蛇) Iwami Kagura performance」を上演し好評を博しました(図7)。

次期開催は、日本農村医学会は2019年北海道帯広市、国際農村医学会は2020年ハンガリー

(ペーチ市)、2021年セルビア(ベオグラード市)と決まりました。

まとめ
個別化(都道府県別・医療圏別・診療科別)と集約化の進行、そしてICTの活用(図8)

今後、日本の医療を考える上で、キーワードの第一は「個別化」です。個別化(県別・医療圏別・診療科別)の表現型として、①地域医療構想調整会議(厚労省の主導で現在進行中)、②地域別診療報酬の導入(財務省・経団連がバックで今後も検討される可能性あり)、③医師の診療科別偏在・地域

偏在の問題(新しい専門医制度・機構の進行の中で正できるかが焦点、2028年から顕在化する医師過剰時代の到来で調整される可能性もあり)が、現在、各地で進行中です。

二つ目は「集約化」の進行、①国交省が中心となつて進めているコンパクトシティ構想、これも

ジョイント・コングレスの開会式



ジョイント・コングレスで会長講演の新谷院長



2018年10月9日、学会長招宴後の記念撮影



今後の日本の医療介護体制の動向

2025年問題・2040年問題をむかえて

図8

1. 個別化(都道府県別・医療圏別・診療科別)が進行します。

- ①地域医療構想調整会議(厚労省等が主導)現在、全国で最終局面を迎えています。
- ②地域別診療報酬の導入(財務省・経団連等が主導)奈良県で頓挫するも、今後の再燃は。
- ③医師の診療科別偏在・地域偏在の是正(厚労省等が主導)専門医師数規制、開業規制の予測。

2. 同時に、集約化が進行します。

- ①コンパクトシティ構想(国交省等が主導)失敗を重ねながらも、形を変えてトライされるでしょう。
- ②地域医療推進連携法人(成功例も出てきて、地域によっては全国的に広がる可能性があります)

3. ICT(Information and Communication Technology)の活用。

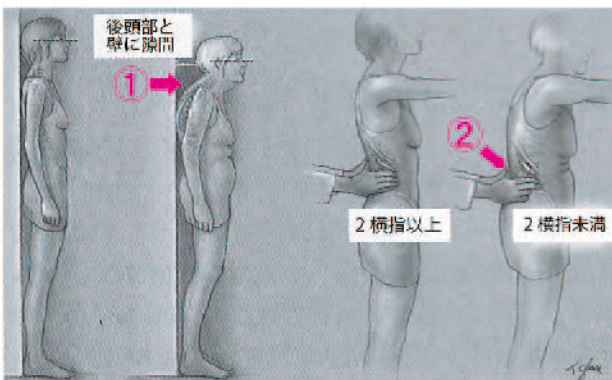
- ①医療ビッグデータ分析と活用(保健・保険・医療・介護)(厚労省等が主導)
- ②在宅医療のICT化の推進(厚労省・経産省が主導)全国各地で始まっています。
- ③自動運転機能車の実用化(国交省・経産省が主導)外来診療の導線が激変します。

多くの都市で失敗を重ねながらも、富山市では一応成功とされています。今後、地方の中でも特に郡部の人口激減(限界集落)の対応策として改めて検討されるでしょう。

②「地域医療連携推進法人」、これは山形県の日本海総合病院(642床)を中心とした「一般社団法人・日本海ヘルスネット」が成功例として有名です。現在、日本各地でこのタイプの「地域医療連携推進法人」設立の動きが目立ちます。三つ目は、ICT(Information and Communication Technology)の活用です。①医療ビッグデータ

分析と活用(保健・保険・医療・介護)の推進、②在宅医療のICT化の推進、遠隔診療のこれまで以上の解禁、③また、自動運転機能車の実用化は、僻地医療を含め郡部の高齢者の生活を劇的に変えるでしょう。

今後、日本の医療は、中長期的には(1)個別化(県別・医療圏別・診療科別)の進行、(2)集約化の進行、(3)ICT(Information and Communication Technology)の活用を軸に展開し、当院JAとりで総合医療センターの将来も、この中で決まってくると思われまます。



■体重
「やせすぎ」のかたは骨折しやすいですが、太りすぎも今度は腕の骨折が多くなる報告があるので適正体重が良いのでしよう。

■喫煙
「喫煙」すなわちタバコは骨粗鬆症の原因になります。具体的には1・25から1・76倍に骨折リスクが上がると言われています。がん「だけ」でなく「骨粗鬆症」の観点からも禁煙はお勧めします。

■身長
身長が2cm以上低下した方も骨粗鬆症のリスクがあります。図のように壁に立ってみて頭のうしろと壁に隙間ができる場合(図①)、あばら骨と腰骨の間に指が2本入らない場合(図②)は詳しい検査をされることを勧めます。

骨粗鬆症と骨折予防(4)

骨折の危険因子

整形外科部長
鈴木 康司



■女性ホルモン
女性ホルモンと骨粗鬆症は関係があり、早期に閉経、具体的には45歳未満で閉経された方は骨が弱くなります。

ご両親に大腿骨近位部骨折(足の付け根の骨折)がいらいしやる方は骨が弱い傾向にあります。

■喫煙
「喫煙」すなわちタバコは骨粗鬆症の原因になります。具体的には1・25から1・76倍に骨折リスクが上がると言われています。がん「だけ」でなく「骨粗鬆症」の観点からも禁煙はお勧めします。

本日のポイント

- 骨折の危険因子には、太りすぎ、痩せすぎ、タバコ、お酒の飲みすぎがあります。

「最良の治療を受けるために」「望む最期を迎えるために」

化学療法室
緩和ケア認定看護師
鈴木 三栄子



想像してみてください。突然、「がんです。治療を開始しましょう」「残された時間が限られています」と、言われたら。続けて治療方法の説明があってもその後の話を覚えていられるでしょうか。

情報を整理し自分の状況を知る

す。弱音を吐いても、泣いてしまっても構いません。思っていることを吐き出して少しでもすっきりして下さい。一緒に気持ちを整えていきましょう。

がん相談室

- 相談時間
毎週木曜日、9時～16時(他の曜日の午後、要相談) 1時間程度
- 場所
2階 化学療法室の奥「がん相談室」
- お申し込み(予約制)
受付時間(電話、窓口予約) 9時～16時
- ご不明な点はお問い合わせください。

落ち着いたら情報を整理しましょう。治療に向かう気持ちや環境を整えることができます。

①自分の病名、病期
②どんな治療方法が最適か
③不安に思っていることや確認したいことはどんなことか

面会禁止のお知らせ

院内でインフルエンザが流行しています。入院患者さんの安全確保のため、竜ヶ崎保健所管内のインフルエンザ警報が解除されるまでは面会禁止とさせていただきます。ご理解とご協力をお願い致します。

平成三十一年一月十九日

人の動き

採用(12月)
秦 恵美 看護部